

物語 チェコの歴史

森と高原と古城の国

薩摩秀登著 (中公新書、1838)

254ページ

220781169 野畑駿太郎

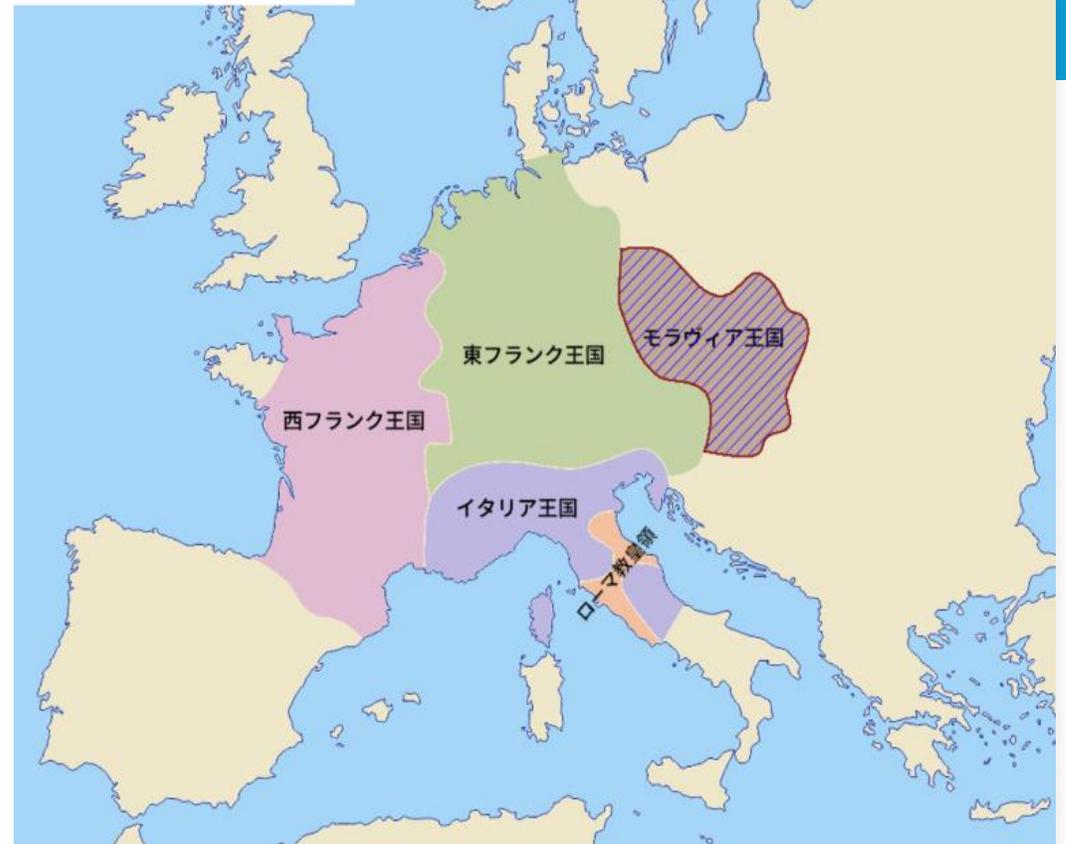


目的：チェコの歴史発展から文化や社会の変遷を理解

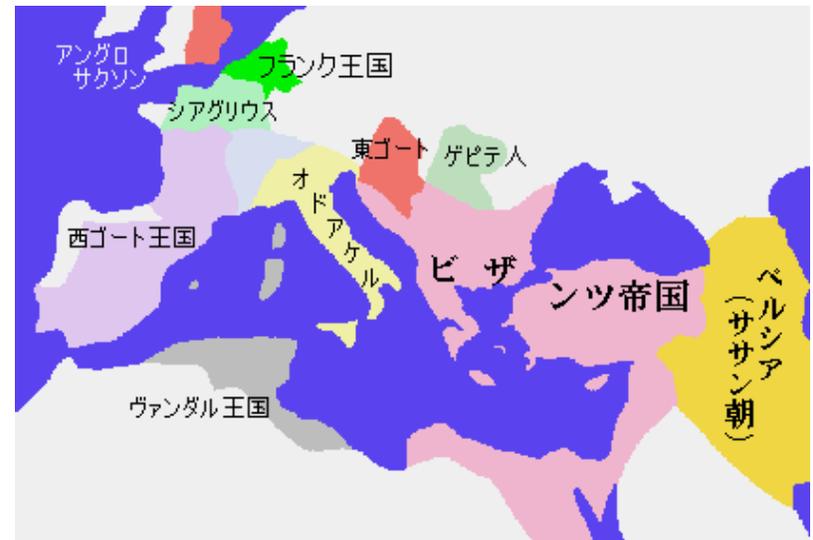
第一章：古代から中世初期

1. チェコの地には古代から人々が居住
2. ケルト人→ゲルマン人→六世紀にはスラヴ人の移住と定住生活
3. 9世紀にのモラヴィア王国の成立と統一国家の誕生

9世紀後半 モラヴィア王国の位置



-
- 1.ビザンツ帝国の影響によるキリスト教の受容とキリル文字の導入
 - 2.10世紀にモラヴィア王国崩壊
 - 3.その後、ボヘミア（現在のチェコ共和国の大部分）の新たな国家の形成



第二章：中世のボヘミア王国

1. 10世紀に成立したボヘミア公国、その後ボヘミア王国への発展
2. プラハはボヘミア王国の中心都市として繁栄
3. カレル大学の創立など、文化と学問の中心地
4. 14世紀（神聖ローマ皇帝カール4世）の治世
5. ボヘミア王国の黄金時代



1. プラハを神聖
ローマ帝国の首都
とし、都市開発を
開始



2. プラハ城の再建
やカレル橋の建設

3. 文化と学問の発
展、ヨーロッパ知
的センターとしての
地位



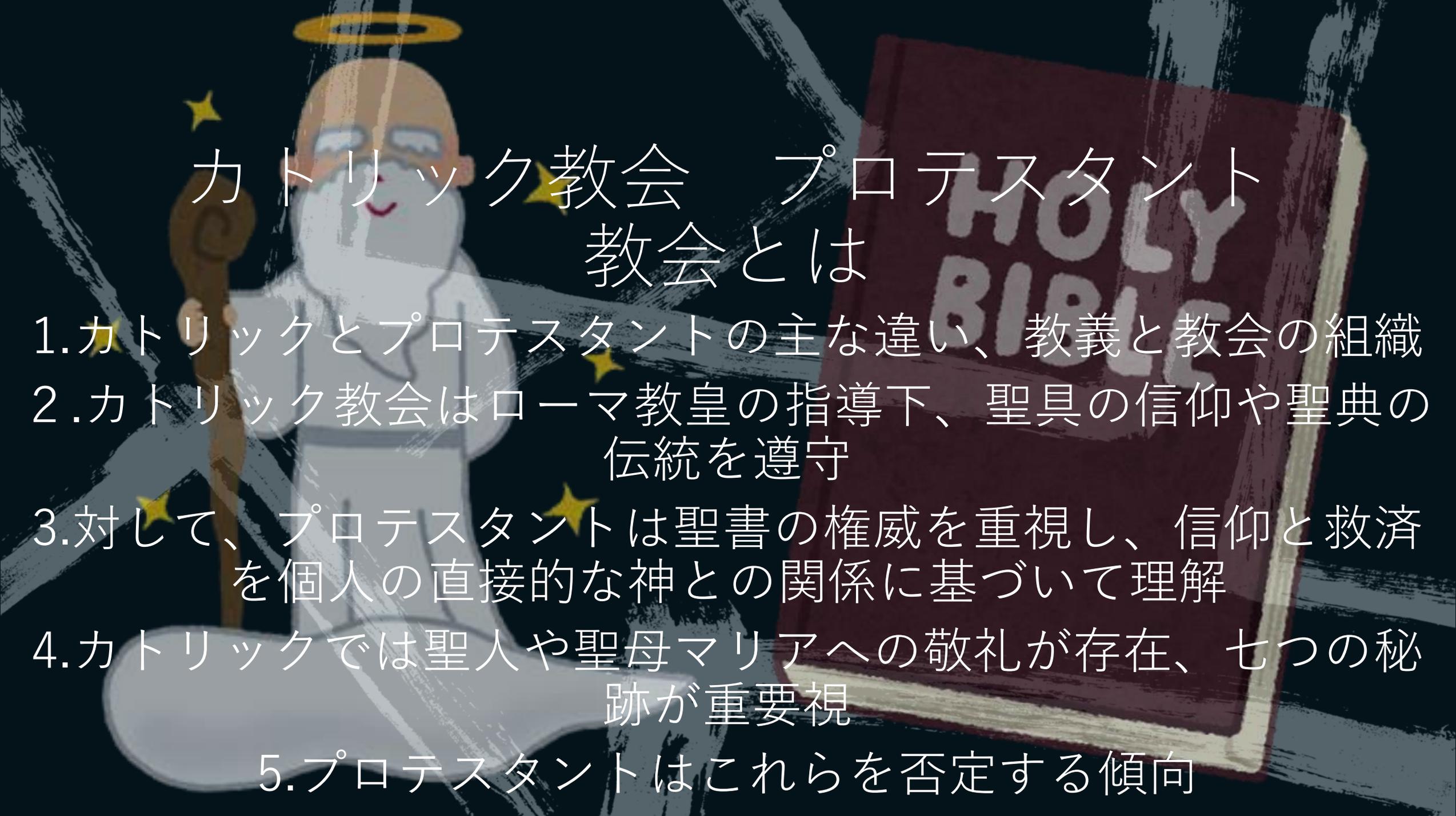
第三章：宗教改革と ハプスブルク統治

- 1.1 5世紀、ヤン・フスによる宗教改革運動
- 2.フスの思想、教会の腐敗批判と聖書に基づく信仰重視
- 3.フス戦争（1419—1436）へ発展
- 4.ボヘミア国内の宗教対立



1. 16世紀、ボヘミアはハプスブルク家の支配下
2. ハプスブルク家、カトリック教会を支持
3. プロテスタント勢力との対立
4. 1618年のプラハ窓外投擲事件、三十年戦争の勃発
5. 戦争結果、ボヘミアはハプスブルク家の支配強化カトリック教化の進展





カトリック教会 プロテスタント 教会とは

- 1.カトリックとプロテスタントの主な違い、教義と教会の組織
- 2.カトリック教会はローマ教皇の指導下、聖具の信仰や聖典の
伝統を遵守
- 3.対して、プロテスタントは聖書の権威を重視し、信仰と救済
を個人の直接的な神との関係に基づいて理解
- 4.カトリックでは聖人や聖母マリアへの敬礼が存在、七つの秘
跡が重要視
- 5.プロテスタントはこれらを否定する傾向

第四章：近代の民族運動

1. 19世紀、ナポレオン戦争の影響

2. ヨーロッパ各地でナショナリズムの波及

3. ボヘミアでもチェコ民族の自覚

4. 民族復興運動の活発化

チェコ語の復興、文学・芸術の発展

5. 1848年のヨーロッパ革命の波及



1. チェコでも自治権を求める運動
2. オーストリア帝国の強靱な抑圧
3. 運動の一時的沈静化
4. 19世紀後半、チェコ人の民族意識の高揚
5. 自治権獲得への再びの動向





第5章：チェコスロバキアの成立と第二次世界大戦

1. 第一次世界大戦の1918年、オーストリア・ハンガリー帝国の崩壊、チェコスロバキア共和国の独立
2. トマーシュ・ガリグ・マサリク、初代大統領に就任。民主主義と自由を基盤とした国家の構築



1. 民主主義と自由を基盤とした国家構築
2. 1938年のミュンヘン協定
3. ナチス・ドイツにズデーテン地方を割譲
4. 1939年、ナチス・ドイツのチェコ全土占領
5. チェコスロバキアの解体

第6章：第二次世界大戦後と共産主義体制

1. 第二次世界大戦後、チェコスロバキアの再独立
2. 1948年の共産主義政権樹立
3. ソ連影響下、共産主義体制の強化
4. 1950年代のスターリン主義的抑圧
5. 1968年、アレキサンデル・ドゥプチェクの改革路線しかし、ソ連の介入により挫折





1. 「プラハの春」

2. 1980年代後半、ソ連の
ビエト連邦の
改革とともに
チェコスロバ
キアでも改革
の機運上昇

1. プラハの春は、1968年に起きたチェコスロバキアの改革運動

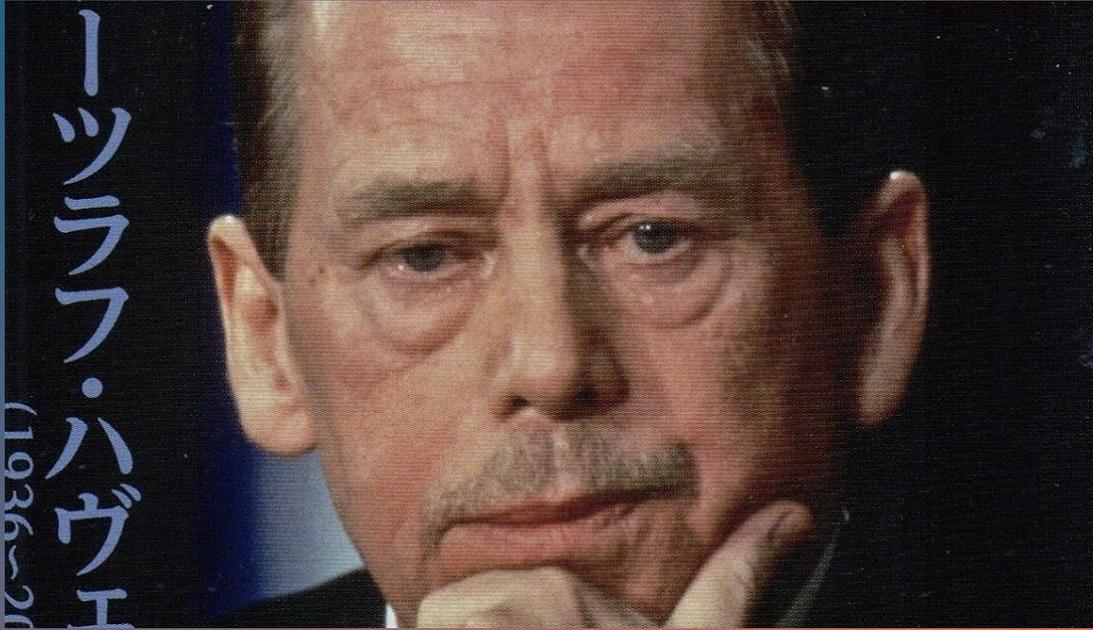
2. 共産党が進めた政治的な自由化や経済改革、国内では新たな自由と希望が出現

3. しかし、ソ連を含むワルシャワ条約機構諸国が軍事介入し、改革は弾圧

4. この出来事はチェコスロバキア社会に大きな衝撃

5. その後の政治的経済的状况にも深い影響

プラハ
の春と
は？



第十章：チェコ共和国設立

1. 1989年、ビードロ革命が起こり、共産主義体制が崩壊
2. ヴァーツラフ・ハヴルが大統領に就任
3. 民主化と市場経済への移行が進行
4. 1993年、チェコとスロバキアが平和的に分離、チェコ共和国誕生

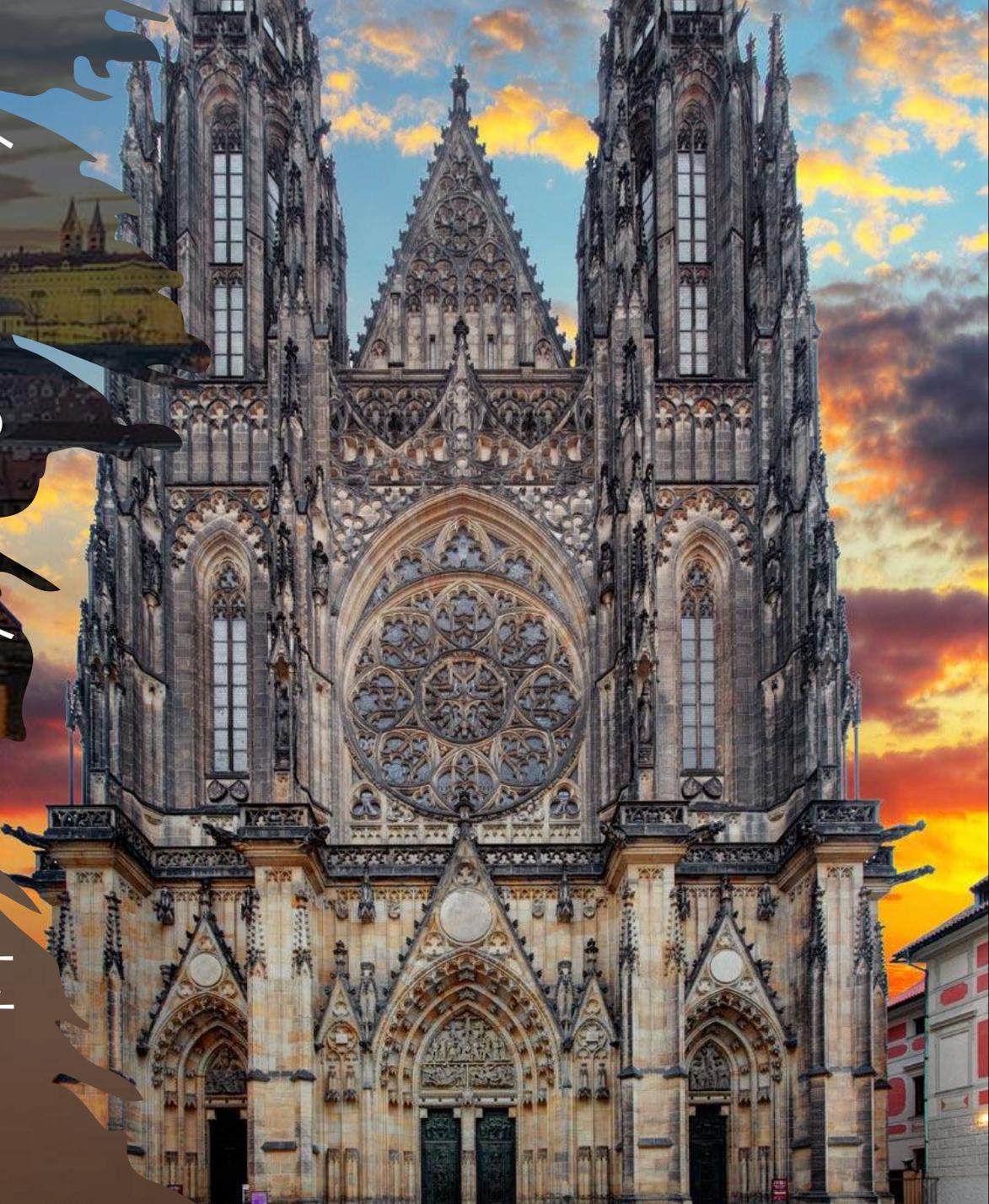
1. 新生チェコは欧州連合への加盟が目標

2. 2004年に正式に加盟、経済は急速に成長、観光業も発展

3. プラハはヨーロッパの文化都市として再評価

4. 歴史の遺産と現代の繁栄が調和

5. チェコは安定と繁栄を享受



結論：チェコの歴史から



1. チェコの歴史は、戦争と平和、抑圧と解放、文化の交錯によって彩色
2. 中央ヨーロッパの要衝としての役割を遂行、独自の文化と歴史を構築
3. チェコの物語は過去から未来への連続した旅路

